



ひの市民活動団体連絡会ニュース

37号 平成27年2月15日

(第9回)支援センターまつり

～雨天のまつりに昨年以上の来場者を迎えて～

平成26年11月29日(土) 11時～15時

湯口会長の開会宣言と市長挨拶で開幕

当日は天気がすぐれず曇りの中で、まずは支援センターの一斉清掃をスタート、雲行きが心配なため清掃と並行してテント5張りの設営を開始しました。清掃は予定通り1時間以内で終了し、引続きセンターまつりの準備に着手しました。

市民フェア終了直後のイベントでしたが、当日は悪天候にも関わらず多くの市民の皆様にご来場頂くとともに、大いにまつりを盛り上げて頂きました。まつりは主催者である、ひの市民活動団体連絡会の湯口会長による開会宣言に続き、来賓として大坪日野市長に祝辞を頂戴した後、各ブースとも活動を開始しました。



力強い餅つきを披露された大坪市長
市民活動へのエールもいただきました

新しいイベントも大好評



屋内イベントコーナーでは新たに合唱団による混声合唱が加わり、また屋外では雨にもめげず餅つき・焼き芋の開始、そしてバウムクーヘン作りの開始、同時に地場産野菜販売や模擬店も元気良くスタートしました。

今回の新たな試み、バウムクーヘン作りの体験コーナーを設営、もう一つは模擬店でピール販売にチャレンジ、一方屋内では1階交流室で古本市を設営しま

した。これまでフリーマーケットは屋外で設営していたのですが、今回は雨天を予測し1階講座室に5店舗を設置、隣接の交流室に子どもの遊びコーナーを設置するなど、お客様が楽しめるよう屋内展示にも細心の配慮を心掛けました。



とろり、とろーり。
種をかけること
3時間……

歓声とため息で盛り上がる恒例の大抽選会

途中から降ってきた雨もまつりの終盤を迎える頃は上がり、お楽しみイベントである大抽選会は大勢の参加者が詰めかけ、当選発表の都度の歓声とため息の悲喜こもごも、そして最後はとっておきの景品(圧力鍋とバーベキューセット)を目指して、ジャンケン大会での勝者2人が見事これをゲットし、大きな拍手とともに終了しました。ことわざに『終り良ければ全て良し』とあるように今回は正にこれを実感できたまつりとなりました。



童心に返ってジャン・ケン・ポン!

1. 参加者数

加盟団体からの参加者数は横這いとなっている半面、一般参加者がごく僅かだが増えてきている。スタート時点から雨に見舞われることになり、これでは来場者も多くは望めないと予想していましたが、結果的には昨年を上回る参加者数でした。また、まつりの後半では天気も回復し陽が差し込むセンター前駐車場で、にぎやかな人の輪が出来ました。

	単位	24年度	25年度	26年度	説明
加盟団体数	団体	16	16	16	参加団体数は横ばい状態(参加率44%)
加盟団体参加者	人	36	33	36	団体からの参加者も伸びず、引続きの課題。
一般参加者	人	164	180	184	一般参加者は微増
合計	人	200	213	220	

2. 会計報告

模擬店は昨年同様にコーヒー100円、クッキー200円、スノーボール300円、トン汁100円およびフランクフルト100円で販売しました。また今年は新たに缶ビール250円、ノンアルコール150円での販売を試みましたが、生憎と天気に恵まれずかなり手元に残ってしまいました。幸いにスタッフのご協力を頂き、双方とも結果的には全てを売り切ることが出来ました。まつり会計の収支の黒字が今後の課題です。

	単位	24年度	25年度	26年度	説明
売上高	円	68,150	53,860	71,402	前年比133%、予算比102%、
売上利益	円	13,115	14,576	16,180	前年比116%、売上利益率22.7%
餅等材料費	円	11,706	16,083	18,138	前年比113%、(バウムクーヘンを含む)
抽選会の景品	円	0	14,000	14,000	1～3等景品(御菓子セット)を調達
チラシ印刷費	円	0	0	2,610	800枚をプリントバックで印刷
差引純利益	円	1,409	-15,507	-18,568	

3. フリーマーケット

	単位	24年度	25年度	26年度	説明
連絡会加盟団体	団体	2	4	6	前年比2店舗増
一般団体	団体	1	1	1	農業者(阿川氏)による地場野菜販売
合計	団体	3	5	7	

参加団体は共働事業所あいあむ、日野子ども劇場、至誠あずま保育園、日野映像支援隊、市民サポートセンター日野、およびたまりばあの6団体であった。販売商品としては、衣類やアクセサリ、日用雑貨や子どものおもちゃの他、食品など幅広く出展され、賑わいました。

感謝 ♡いつもありがとうございます♡

- ・焼き芋のサツマイモは全てコバサン農園(園主 小林和男氏)から寄贈して頂きました。
- ・竈で燃料の材木は、伊藤住宅(店主 伊藤良助氏)から寄贈して頂きました。



4張りのテントで出店



阿川さん自ら販売の店。農業の楽しさや大変さを教えていただきました



ずらりと並んだつきたてのお餅。三種類の味は来場者に大好評!



荻原副市長は返しの名人!

コバサン農園の焼き芋は甘くてホクホク黄色と紫のお芋があり、みんな大喜び!

雨でも薪がよく燃えて、美味しい

お餅と焼き芋になりました



おわりに...

今回の支援センターまつりは、当所に拠点を構えてから9度目のまつりとなります。これまでのまつりは、どちらかと言えば加盟団体間の交流と親睦を主たる目的として実施してきましたが、今後は支援センターが所属している自治会との交流の機会を持つことが必要だろうと考えています。このたびの「ひの市民活動支援センターまつり」を開催するにあたり、近隣および様々な皆様のご支援とご協力を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。スタートは雨でも、終盤は晴れ、何と有難いことかと、自然の恵みに感謝することの大切さを痛感しました。



音色が優しいマンドリン♪♪



会場が一体となったすばらしい合唱



子ども遊びコーナー



わくわくマジックショー

加盟団体紹介

多摩 IT 普及会

シンプルな組織でユーザーフレンドリーな「何でも相談」と「レッスン」



東京・多摩地域のシニア情報生活アドバイザーに呼びかけ、平成13年に生まれた「多摩IT普及会」。女性や高齢者の方々がパソコンやスマートフォン（スマホ）、携帯電話など情報機器をくらしに活用し、より楽しく活動的な生活が送れるように、くらしの質（QOL）の向上を目指した支援活動を続けています。活動の一端を紹介すると、首都圏の大手鉄道会社「京王電鉄株式会社」の要請で協働事業が平成19年12月よりスタートしました。この事業は京王線沿線にお住まい住民の方々にサービス事業（有償）を展開する「京王ほっとネットワーク」（高幡店・高幡不動駅ビル2F）を会場に、月2回、第2と第4月曜日の13時～15時、「パソコン・スマホ・携帯電話なんでも相談とワンポイントレッスン」（ITなんでも相談）を開催しています。IT機器操作に関する悩み事・知りたいこと等ポイントを絞って学ぶ「なんでも相談」です。基本すぎでいまさら人に聞けない操作や、説明書を読んでもわからない部分があれば、気軽に参加してほしいですね。「多摩IT普及会」という小さな任意団体ですが、行政・企業・市民活動団体との協働で、市民がいきいきとした社会づくりに活動を展開しています。 連絡先：代表 吉野 吾郎 TEL 090-9840-7810

日野団塊世代広場

日野市内イベント等への参加 日野市との協働事業 会員の啓発活動・親睦会

日野団塊世代広場は『生きがい、働きがい、地域がい』をモットーに日野市に住む団塊世代が中心になってつくった団体です。会員には職場で働く、いわゆる「現役」もいれば「現役」を引退した人もいます。でも、企業や職場を離れたって人生の「現役」を退くわけではありません。まだまだ、やりたいこと・やれることがある、地域のお役にも立ちたい。そんな「想い」を持っています。会の目的は、①培った経験や知識、スキルを活かし、自分たち自身が地域で活躍する。②培った経験や知識、スキルを活かし、地域での活躍を目指す人達の支援をする。つまり、自ら行動する立場と団塊世代に限らず地域で活躍する人達を支える立場です。なお、2008年10月から、地域や市民の人達との交流の場として、「平山台ひろば」を開設しましたのでお気軽にお訪ね下さい。



「平山台ひろば」：毎週、火曜日、土曜日の10時から14時 場所、当会事務所
〒191-0043 日野市平山2-1-1 日野市立平山台健康・市民支援センター（旧平山台小学校）
Tel/Fax 042-843-8723 E-Mail : info@dsedai.com

当連絡会が「NPO法人ひの市民活動団体連絡会」に！

東京都に認証を申請しました

【中間支援組織】 私たちの暮らす日野市を住みよいまちにするためには、市民自らが行動することが大切です。このような思いを持って2003年に日野市を拠点として市民活動を行っている19団体が集まり、発足したのが現在のひの市民活動団体連絡会です。以来、団体相互の連携協力の場として、そして団体を支援する中間組織としてその役割を果たしてきました。

【団体の課題解決】 市内には数多くの市民活動団体があり、まちづくりや社会問題解決をめざして、様々な活動に取り組んでいます。しかし小規模な団体が多く、人集め、活動拠点探し、そして活動資金作りに苦慮しており、個々の団体の努力だけでは限界があります。中間支援組織は多くの団体が抱える共通の課題を解決するため情報を集めて団体に提供し、また団体の力を結集して一緒に問題解決に当たる場でもあります。

【NPO化の必要性と目的】 市民団体によるまちづくり活動には多くの市民の理解と支援、そして行政との連携・協働が重要です。中間支援組織としての当連絡会もまた同様です。法に則った責任ある組織として活動し、より活動内容を透明化して、市民、行政、企業等の信頼と支援を得て活動を強化する必要があります。そこで、連絡会の責任と透明化を見える形にするため、これまでの任意団体から特定非営利活動法人に改編することとしました。

【スケジュール】 昨年11月に編成した10名からなるNPO法人化準備会が、6回にわたる会議を経て法人化に向けた諸検討を行いました。そして去る2月1日にひの市民活動支援センターで行ったNPO法人設立総会において、満場一致で「NPO法人ひの市民活動団体連絡会」に改編することを決議しました。既に東京都の認証を受けるべく申請手続きを済ませており、順調に行けば6月中に認証される見込みです。NPO法人になることによって当連絡会の発展が期待されると同時に責任も重くなります。

加盟団体の皆さんにはこれまで以上のご支援とご協力をお願いいたします。

ひの市民活動団体連絡会会長 湯口裕

“支援センターまつり”おめでとうございます

11月29日（土）に開催された「支援センターまつり」は、盛況のうちに終わられ、おめでとうございます。
 今後、日野市は超高齢化社会を迎え、そして人口減少社会に本格的に突入します。これによって行政の収入は減少し、社会保障費といった支出は増えてまいります。そういった将来の大きな課題を解決していくためには、市民活動の活性化、市民同士の協働を更に進め、まち全体の効率性を高めていくことが必要だと考えています。
 課題の現れ方の一つとしては、今後まちでは空き家や空き店舗が増えるといった状況が予想されます。しかし、これをマイナスとして考えるだけではなく、プラスの資源として捉え、資源と皆様の活動を柔軟に掛け合わせていくことが、皆様にはできると考えています。支援センターまつりで感じた温かな空間が、市内の多くで繰り広げられるよう、皆さんと一緒に取り組んでまいりたいと思います。
 これから、ひの市民活動団体連絡会がNPO法人となり市民活動を支える中間組織として、今後益々充実した活動をしていただけることを期待しております。

（日野市地域協働課）

事務局便り

支援センターの一斉清掃が、短時間できれいに終了することができました

昨年11月29日（土）に支援センターの一斉清掃を行いました。お陰様ですっかりきれいになり、気持ちよく使えるようになりました。皆さんご協力有難うございました。

今年度から、事務室A、Bの入居団体が日常清掃の分担表を作り、日頃から環境整備を心掛けてくださった結果、一斉清掃が1時間足らずで終わられたのではないかと思います。皆さんのご協力に感謝です。

事務室（A）入居団体を募集しています

ひの市民活動支援センターの事務室（A）の利用者は現在3団体であり、まだ相当の空きスペースがあります。事務室は共益費が12,000円/年の負担のみの格安な利用が可能です。

次年度に向かって、そろそろ事務所を構えたい、拠点が欲しいと検討している団体はいませんか。一度見学にお越しください。午後の時間帯には事務局からもご説明いたします。

連絡会のNPO法人化に向けて、ご協力をお願いします

事務局ではNPO法人化に向けて、事業計画や予算編成を指定様式で作成するなど準備に取り掛かっています。2月1日には設立総会が開催され、法人化への第一歩を踏み出しました。本連絡会ニュースがお手元に届く頃には具体的な申請の時期など決定していることでしょう。
 NPO法人へのスムーズな移行を進めたく、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

ひの市民活動団体連絡会 第21回 定期総会のお知らせ

【日時】4月19日（日） 14時～15時半
 【場所】ひの市民活動支援センター2階
 【議題】H26年度事業報告、決算報告
 H27年度事業計画（案）、予算（案）

万障お繰り合わせの上ご出席ください。
 終了後懇親会を予定していますので、ぜひご参加くださいね！

27年度 ひの市民活動団体連絡会カレンダー みなさん、ご予約ください

5月24日（日）支援センター一斉清掃・懇親会
 6月7日（日）ねんも公園一斉除草
 9月27日（日）ねんも公園一斉除草
 10月25日（日）ひの市民フェア（日程調整中）
 11月28日（土）支援センターまつり
 開始前にセンター一斉清掃あり



編集 後記

窓から見える畑に霜柱を発見する時、故郷を思い出す。
 東京へ出てきた冬に初めて見た霜柱、知識では知っていたが何センチもありキラキラ輝いていた。故郷は季候も人も暖かい。娘たちは、日野で生まれた。また、その娘たちは日野で子どもを育てる。連絡会に加入して活動しているのは、日野の環境や自然を守り子ども達に少しでも良くし、引き継ぎたいとの思いだった。子ども達は今住んでいる日野が故郷になるから。

（日野団塊世代広場 中山達雄）

